



海洋システム科通信 9月号

漁師になった5日間 (サンマ棒受け網漁業実習)

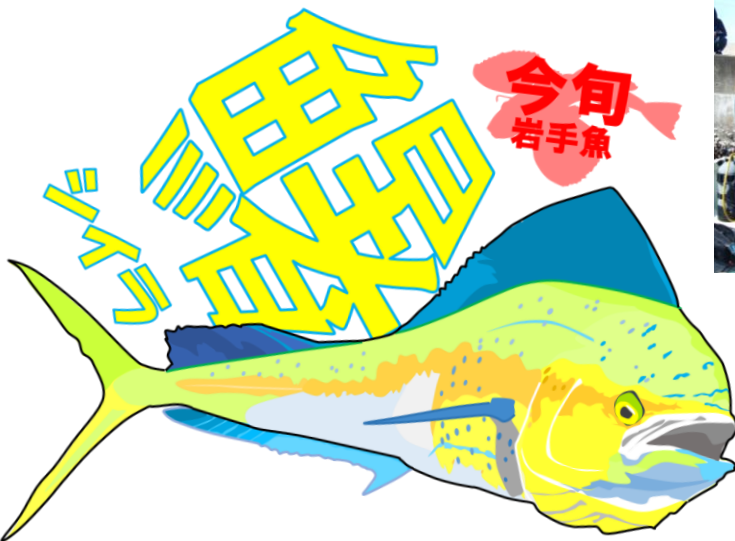


海洋科学コースの2年生が、実習船「海翔」に乗り込み、サンマの棒受け網実習を行った！5日間の船内生活や漁労作業を通じて、「漁師の顔」になって帰ってきた！

自信と知恵を胸に！ (広田湾ダイビング実習)



ダイビングの資格取得に向けて海洋科学コースの3年生が潜水実習を行った！初めての海での潜水に、これまでプールで身に付けた知識・技術を胸に自信をもって取り組んだ！



先生の独り言 vol.6

「救世主」

世界中で魚の養殖がピンチだ。エサの値段が高騰し、養殖業者を苦しめているのだ。魚の養殖では経費の6割以上がエサ代であるから、エサの値段高騰は致命的な問題となる。エサの価格高騰の原因は、主な原料である魚粉にある。魚粉とは、サバやイワシなどの小魚を乾燥させて粉状にしたものであるが、近年、小魚の不漁を理由に価格が高騰しており、養殖業者は大打撃を受けているのだ。「エサの魚粉を少なくすれば良いのでは？」と考えた人もいるかもしれないが、そう簡単なことではない。養殖魚が生きてくためには魚粉が不可欠なのだ。実は、養殖されている魚のほとんどが、もともとは他の魚や甲殻類などの動物を捕まえて食べる肉食だ。つまり、生きてくためには動物性のたんぱく質が多量に必要なのである。たんぱく質が豊富で魚粉よりも安い原料があれば、



魚類養殖は救われるのだが・・・
 そんな中、注目を集めているのが“昆虫”である。あまり知られていないが、昆虫はたんぱく質が豊富である。例えば、コオロギやバクダに含まれるたんぱく質はサバや牛よりも多い。しかも、魚よりも小型で一生涯が短いため、人の手で育てても短い期間で大量に生産できる。加えて、虫によっては、人の食べ残しや腐った食べ物などの食料廃棄物でも育てることができるため、生産コストも安く済む可能性がある。昆虫は魚粉に代わる原料として有力な候補と言えるだろう。今日までに虫をエサに混ぜて魚に与える様々な研究が行われており、養殖魚の体色を改善する効果や免疫力を高めて病気にかかりにくくする効果なども報告されている。
 昆虫が魚類養殖のピンチを救う“救世主”となり、虫育ちの魚を私たちが口にする日は遠くないだろう。

